パイレーツ・オブ・カリビアン　生命の泉〈自衛隊介入〉

カトタク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パイレーツ・オブ・カリビアン　生命の泉〈自衛隊介入〉

【Ｎコード】
Ｎ６２０１Ｚ

【作者名】
カトタク

【あらすじ】
２０１５年、海賊対策と称して派遣されることになった日本国海上自衛隊特務護衛艦隊群。しかし本当の任務はカリブ海上転移研究基地（ＫＪＭＥＳ）で１７世紀中期へ時空転移し、海賊を出し抜いて生命の泉を手に入れることだった。２週間後、‘日本領’ハワイ島真珠湾の第２機動艦隊と合流しカリブ海上で時空転移した彼らの前にあったのは日本が１７世紀のコスタリカを十数年かけて物資を運び、開発した自衛隊の現地基地だった！！　パイレーツの世界に進出した自衛隊の活躍は！？

出港（前書き）

見切り発車です。こんなの書く前にほかの更新しろとか言われてもしょうがない！！
どうぞ！！

『大和』型戦艦性能（１９９５年～）
全長　２６４ｍ
全幅　３８．９ｍ
機関　ＬＭ５４００ガスタービンエンジン８基
　ＣＯＧＡＧ４軸推進
最大速力　３０ノット
乗員　５６０名
兵装　４５口径４６０ｍｍ３連装砲塔　３基
　６０口径１５５ｍｍ３連装砲塔　２基
　４０口径１２７ｍｍ連装速射高角砲　６基
　２０ｍｍ対空機関砲　２４基
　ＣＩＷＳ高性能２０ｍｍ機関砲　６基
搭載機　ＳＨ－６０Ｋ　３機
　ＡＨ－６４Ｄ　２機
　ＣＨ－４７ＪＡ　１機

出港

１９４４年　８月９日
大日本帝国の講和の打診により第二次世界大戦が終結。戦後処理が始まる。帝国陸海軍解体。中国からの元帝国軍の撤退を開始。

１９４４年　８月１５日
大日本国憲法公布。即日施行。侵略戦争の放棄をうたう。

１９４４年　９月１０日
事実上の国軍として陸上自衛隊、海上自衛隊発足。米軍からの兵器供給開始。海自に旧海軍軍艦１９隻編入。

１９４４年　１２月２４日
戦後処理完了。各国との国交正常化。

１９４５年　１０月２４日
アメリカ、ソ連、イギリスが中心となり国際連合が発足。日本も常任理事国として参加。

１９５３年　１０月３日
航空自衛隊発足。初代主力機はＦ－８６Ｆ。

１９５５年
太平洋上で海賊行為が活発化。各国海軍が警戒部隊を派遣。

１９５７年
旧海軍戦艦、現海上自衛隊戦艦『大和』以下艦船１５隻が海賊対策に派遣。停泊基地は？日本領〝ハワイ島真珠湾。

１９６０年
海賊対策派遣終了。『大和』ら帰港。旧海軍軍艦のほぼ全てが退役。
『大和』『武蔵』『長門』『陸奥』は記念艦として保存が決定。

１９７８年
新防衛大綱制定。陸上自衛隊２４万人、海上自衛隊１５万人、航空自衛隊１４万人態勢に増員。

１９９０年
次期支援戦闘機、第三次Ｆ－Ｘ、純国産での製造が決定。Ｆ－２Ｘ計画始動。

１９９５年
記念艦として真珠湾と横須賀港に動体保存されていた戦艦『大和』『武蔵』『長門』『陸奥』がドック入り。近代化改修（FRAM）を行い現役復帰。内『大和』『武蔵』はイージスシステムを搭載。
ＰＫＯ派遣部隊消失事件発生。輸送艦『大隅』『国東』ごと自衛官９３０名弱が行方不明に。

２０１１年
第４次Ｆ－ＸをＦ－２ＦＥ、第５次Ｆ－Ｘを国産ステルス機に決定。
Ｆ－３Ｘ計画始動。
ふたたび太平洋上で海賊行為が多発。シーレーンの被害も拡大のため自衛艦隊出動が決定。

２０１５年
第２次海賊対策派遣艦隊帰港。第３次艦隊の派遣が決定。

第３次海賊対策護衛艦隊群編成

BBG
ミサイル戦艦『大和（やまと）』『長門（ながと）』
DDG
ミサイル巡洋艦『金剛（こんごう）』
DD
汎用駆逐艦『村雨（むらさめ）』『有明（ありあけ）』『高波（たかなみ）』『鈴波（すずなみ）』
DDH
ヘリ空母『伊勢（いせ）』『高雄（たかお）』
SS
潜水艦『親潮（おやしお）』『満潮（みちしお）』
AOE
補給艦『磨周（ましゅう）』『淡海（おうみ）』
LST
輸送艦『能登（のと）』『知床（しれとこ）』

史実との相違

・第二次世界大戦が1年以上前に講和によって終結。敗戦では無いため米軍の上陸はなく、現在でも国内に米軍基地は存在しない。

・各国との国交は正常であり、領土問題は全く存在しない。

・アメリカからの無差別爆撃などの国際法違反の賠償としてハワイ諸島を日本領としている。現在ハワイ島真珠湾が第2機動艦隊の母港となっている。

・自衛隊は広く国民に国軍として映っており、国としての交戦権も保持している。

・早くから国産兵器の開発を始めており、約半数の戦闘機を除き、現在はほとんどが国産である。

・武器輸出規制が無く、海外に広く日本製兵器が浸透している。

・朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争は起こっていない。（75年間、大規模な戦争が起こっていない）

・が、対ゲリラ戦闘は何度も発生し、海賊行為もテロ行為に含まれるようになった。

・既に自衛隊として交戦経験を持つ。

・海上自衛隊は自衛艦95隻、潜水艦34隻、補給艦15隻、輸送艦20隻、その他艦艇33隻、作戦航空機970機を有し、隊員数は約5万3000人である。

・航空自衛隊は戦闘機1240機、輸送機67機、その他作戦運用機520機を有し、隊員数は約4万人である。

・陸上自衛隊は各種戦闘車輌1万2000両、その他輸送車輌1万9500両、作戦航空機760機を有し、隊員数は自衛隊中最大の24万8000人である。

2015年1月15日

例年のこの時期に比べていくらか寒いこの日、霧が立ち込める横須賀港海軍バースに15隻の艦(ふね)が停泊していた。第二次世界大戦のころの面影を残す巨大な戦艦2隻と現代の技術で作られた軍艦が7隻、陰にいる鉄の鯨・・・潜水艦を合わせれば9隻である。

この艦隊はシーレーン上に存在する海賊を駆逐するために編成された特務護衛艦隊群である。海賊対策としては過去最大の部隊であり、戦艦と言う巨艦を動員することから大きな期待を寄せられていた。

出港を間近に控えた0950時、その巨艦『大和』の艦橋(ブリッジ)に現れた人影があった。

「艦長、出航10分前になります」

「・・・柿崎二佐か。なあ副長、今回の派遣は何か嫌な予感がするのだが、君は何か感じないかね？」

その艦の艦長、沖島重吾(おきしまじゅうご)一等海佐と副長の柿崎海波(かきざきかいば)二等海佐であった。

「・・・いえ。しかしこの派遣自体がおかしいような気はします」

「どういうことだね？」

「我々の参加についてです。海賊対処には強力な機動力が求められます。なのにガスタービンエンジンに換装したとは言え海自の中では鈍速の『大和』を編入させるなんて・・・。何か・・・強力な火力の必要性などがあるとしか考えられません」

「そうか。それもそうだな。・・・君に見せたいものがある。今日の昼食時、艦長室に来てくれ。一緒に飯にしよう」

「了解です」

柿崎が敬礼し、艦橋内に戻った丁度その時、バースに立てられたスピーカーからラッパの音が流れてきた。出港時刻になったのである。

「６番離せ！！」
『出港用ー意！！』
「３番離せぇ！！」
「前後部、曳索離せ！」
もやいを外された艦はスルスルと湾へ動きだす。
「両舷前進微走！！」
「両舷前進微走、よし！！」
『特務護衛艦隊群司令（GF）に敬礼する！！　礼！！　気をーつけッ！！』
艦左舷に集まった並んだ海曹が一斉に司令官の座上する旗艦、『大和』にむけ敬礼する。
『わかれ！！』
「左、帽振れぇ！！」
次はバースに見送りに来た隊員の家族らに白い帽子を振って別れを告げる。『大和』の艦上で乗員の一部、１６０人の海曹が帽子を振るのはある意味壮観である。バースには家族の他各マスメディアやマニア、極一部左翼人による派遣反対運動家が並んで艦隊群を見送っていた。
「両舷前進帆走！！」
「両舷前進帆走ー！！」
「横須賀港、離脱します！！」
「両舷第二戦速！！」
『大和』を先頭にした１５隻の艦隊群は、一時ハワイ島、真珠湾へと向かった。

コンコンッ
「どうぞ」
「柿崎二佐、入ります」
「ああ、やっと来たか」
「艦長、見せたいものとは？」

「これだ」
そう言って沖島が取り出した物は分厚いＢ４の茶封筒だった。
「なんですか？　これ？」
「・・・私にも分からない」
「どういうことですか？」
「防衛大臣から直々に真珠湾で開封しろとの命令だ」
「・・・気になりますね」
「この派遣の違和感の解がここにあるのだろう」
「・・・どうするつもりですか？」
「まさか私が命令を無視してこの封を外すとでも思っているのかね？」
「・・・はい」
「信用ないなぁ。ま、その通りだけど」
そう言って沖島はペーパーナイフを取りだすと封をあっという間に切ってしまった。
「え、ちょ、マジでですか？」
「もし隊員を危険に巻き込むような任務内容なら・・・まあ軍隊だし危険はあるだろうが・・・度を超えた内容なら隊員のためにも抗議せねばならない。家族にも公表せねばならないだろう」
「・・・・・・」
「だから日本のためでもないなら私は命令を無視してでも乗員の安全を考える」
そう言いながら封を切った封筒から沖島が取りだしたのは一つの丸い古地図とコピー用紙に活字で印刷された命令書だった。柿崎と沖島は頭を突きつけるように命令書を読むと絶句した。そこに書かれていたのはそれほどとんでもない物だったのだ。

海賊対処として特務護衛艦隊群を送り送り出したが、さっそくその任務は解消させてもらう。そして新たな任務として次の任務を受け

ることを日本国総理大臣として命じる。
・一つ。海賊対処での計画通り真珠湾にて補給を行い、それから第二空母機動艦隊と合同でパナマ運河を通りカリブ海へと抜けることを命じる。
・二つ。カリブ海コスタリカ沖の海上基地にて17世紀中期への？時空転移″を命じる。
・三つ。既に転移を終え現地統合基地設営の終わったハイチ特務戦闘旅団に合流し、？生命の泉″の探索を命じる。
・四つ。？生命の泉″の水を現代へ持ち帰り、近々起こるとされる大規模飢饉・災害・戦乱への対策として国立研究機関へ届けることを命じる。
・五つ。以上四つの命令を必ず遂行することを命じる。

日本国総理大臣　赤城修斗（あかぎしゅうと）
防衛大臣　紺野雄二（こんのゆうじ）
厚生労働大臣　水木静香（みずきしずか）
国内食糧管理局局長　今下銀次（いまもとぎんじ）

「まず？時空転移″とはどういう物なのでしょうか？」
「・・・十数年前聞いたことがある。カリブ海上で海底調査をしていた日本海洋研究開発機構（JAMSTEC）の『しんかい６５００』が時空の湾曲した空間を発見したと・・・」
「それを使った転移ということですか？　つまり・・・タイムトラベルと？」
「可能性はある。というかそれしか考えられない」
「まずは司令に相談した方がいいのでは？」
「いや。司令がこれを知らないわけがない。相談では無く幹部を交えた会議にした方がいいだろう」
「了解しました。本日夕食後、２０３０時に幹部及び先任海曹集団

を交えた非常会議を招集します」
「頼んだ。では昼食にするか」
「あ、すっかり忘れてましたね・・・」
柿崎と沖島はすっかり冷めたハンバーグにようやく口を付けたのだった。

だが結局、『大和』艦長の沖島だけでなく他の艦長も命令書を開けてしまったため、全艦放送で事実だけを伝え、あとは個人の反応に任せることになってしまった。夕食前の放送だったため、科員食堂、及び士官食堂は火を突いたような騒ぎになっていた。
「17世紀のカリブ海と言うと海賊全盛期だろ？　危険すぎるだろ」
「いやでもさ。この艦隊に加え時空転移の管理ができるってことは補給もできるわけだろ？　現地の基地も完成してるらしいし。そのへん考えて戦闘してみな？」
「・・・チートだよな、やっぱ」
「俺は行ってやるぜ、海賊時代！！」
「ルフィにでもなったつもりかテメぇは！」
よく聞けば良い意味での騒ぎのようだ。他艦との通信でも状況は似たような物らしい
波乱の予想を大きく裏切り、ハワイまでの航海は終わりに近づいていった。

航海6日目　1700時　『大和』CIC
ハワイに到着するのもあと半日に迫った特務護衛艦隊群旗艦の『大和』艦内では艦のコンピュータが作成した戦闘シミュレーションが起動し、シミュレーション上艦隊全艦での模擬対空戦闘が開始された。CIC正面の巨大なレーダーディスプレイには32機の戦闘機が写しだされていた。
「教練対空戦闘用意！！」
『教練対空戦闘ー！！』

「対空目標群A（アルファ）、航空機４機接近！！　イルミネーターリンク！！
発展型シースパロー（ESSM）発射はじめ！！　一斉発射（サルボー）！！」
「『伊勢』及び『長門』からＥＳＳＭ８発、『金剛』よりスタンダードミサイル２（M-2）８発、計１６発発射！！　それぞれ目標群B（ブラヴォ）、C（チャーリー）、D（デルタ）に対応！！」
「本艦ＥＳＳＭ弾着まであと２０秒！！」
「４６０ｍｍ砲射撃用意！！」
「三式弾装填！！　右対空砲戦！！」
「ミサイル弾着、今！！」
瞬間全艦のＣＩＣのレーダーディスプレイに表示されていた１６機の戦闘機が消滅した。
「敵機、主砲射程内に侵入しました！！」
「主砲、撃ちぃ方始めぇ！！」
実戦では艦前後部の４６０ｍｍ３連装主砲の方砲身が上を向いて毎分６発の三式弾を撃ち出すが、演習なので砲身が上を向くだけである。
「爆発確認！　燃焼粒子展開完了です！！」
「１２７ｍｍ砲発射用意！！」
『大和』と『長門』以外はより小口径の１２７ｍｍ砲を使用しているため、遅れての発砲となる。『日向』『高雄』に至っては主砲すら装備していない。
「敵機より小型目標分離！！　対艦誘導弾と思われます！！」
「目標変更！！　ミサイル迎撃戦闘始め！！」
「撃ちぃ方始めぇ！！」
「右舷高角砲、対空砲撃ち方はじめ！！」
外から見れば何ともないが、ＣＩＣ内の複数の大型ディスプレイでは対艦誘導弾が１６機掛ける各４発。つまり６４発の対艦誘導弾が高角砲や対空砲、三式弾の弾幕をかいくぐっていた。半数は撃墜されたが未だに３０発は残っている。距離が２５００を切ったところで各護衛艦、補給艦に装備されたＣＩＷＳ（高性能２０ｍｍ機関砲）が射撃をはじめた。これ

は白いレーダードームと一体化した射程２０００ｍ、毎分６０００発を誇る６連装対空機関砲である。ＣＩＷＳだけで独立した管制装置を持ち、スイッチのＯＮ／ＯＦＦで自動射撃が可能であるため輸送艦や補給艦などの戦闘能力を持たない艦でも運用が可能である。だがそれも最後の足掻き、『高波』と『金剛』『高雄』に各２発、『大和』は７発ものミサイルの直撃を受けた。本来イージスシステム搭載の『金剛』や『大和』はこんな数のミサイルを受けるはずがないのだが、被害を受けた際の訓練も同時進行で行うため、あえて被害が与えられている。

『ミサイル、本艦右舷耐水区画に直撃！！　通信機器破損！！』

『第４甲板より進水！！　第２艦橋で火災発生！！　応急作業急げ！！』

『ダメコン急げ！！　第３分隊は消火活動を続行！！』

『高角砲１番から４番、使用不能！！』

『第１主砲塔内弾薬格納庫温度が上昇！！　放水開始します！！』

次々と被害とその対応報告が上がってくる中、画面右上から再度接近する機影があった。

「敵航空目標群Ａ及びＤ（アルファ、デルタ）、再度接近！！」

「っ！　なかなかしつこいシステムだな！！　ＥＳＳＭ攻撃始め！！」

「攻撃始め！！」

「敵戦闘機何か投下しました・・・！？　魚雷です！！　魚雷が投下されました！！」

基本的に現代の超音速戦闘機から魚雷は投下できない。投下して海面に接触した時に信管が誤作動して自爆してしまうからである。なので現代の航空機で魚雷を投下する物というとヘリコプターか対潜哨戒機だけである。

「こ、このデタラメが・・・」

「どちらにせよ回避しなければ！！　デコイ発射！！」

「取り舵５５度！！」

『とーりかーじ、５５』
「魚雷到達！　通過しました！！」
「まだだ！　もどーせー！　面舵！！」
『おもーかーじ、戻せ！！』
「魚雷全弾回避！！　ＥＳＳＭ敵機着弾！！」
「当空域、及び海域に敵艦を認めず！！」
「状況終了を確定します！！」
『非常戦闘配置を解除！！』
『艦長より達する。真珠湾入港まで６時間である。入港後２４時間で補給を完了し、翌２２日０９００時、第２機動艦隊とともに―カリブ海上転移研究基地《ＫＪＭＥＳ》へ向け出港する。当初とは違う任務ではあるが、頑張ってほしい。以上。総員第３警戒態勢での哨戒に当たれ！！』

航海７日目　０４００時
まだ日の上りきらない早朝、比較的暖かいこの海域を最大戦速で進む艦隊はその目線の先に大量の自衛艦が係留された軍港を見すえていた。戦艦『武蔵』『陸奥』や空母『赤城』、巡洋艦『愛宕』『足柄』『霧島』、駆逐艦『大波』『巻波』『村雨』『五月雨』、その他ミサイル艇や掃海艦、輸送艦、補給艦など海上自衛隊最新鋭の主力艦を有する第２機動艦隊の母港である真珠湾だ。１９４１年に旧日本海軍による奇襲を受けたこの港は、１９４４年の講和の際アメリカから民間人虐殺の賠償として割譲された日本最大の海上基地である。もちろん島の反対側は世界有数の観光地として多くの企業が進出している。
『入港用ー意！！』
そんな場所に入港するため特務護衛艦隊群からラッパが鳴り響き、彼女たちの乗組員は慌ただしさを見せ始めていた。

０４３０時『大和』艦橋

艦長席に座りハワイ島への進路を指示していた沖島はもう目の前に迫った港への入港手続き完了の知らせを待っていた。
「艦長。入港用意、完了しました。基地要員からは『伊勢』『高雄』を空母用岸壁へ、『大和』『長門』を湾内簡易埠頭へ、その他巡洋艦、駆逐艦は埠頭への接岸を要請されました」
柿崎副長が各艦の停泊指示を報告する。
「一応乗員の直接上陸ができるのだな？」
「はい。しかし補給予定が詰まっていますので半舷上陸を3時間ずつしか許可できません」
「それは仕方あるまい。右舷左舷どちらから始めるかは先任海曹に任せなさい」
「了解です」
「湾内侵入開始。両舷前進帆走！！」
「両舷前進帆走ー！！」
「取り舵４０度！」
「とーりかーじ、４０」
「他艦間隔よーし」
『我々は一時艦隊を離脱し、湾内の簡易埠頭へ向かう！！　僚艦へ礼！！　気をー付けッ！！』
甲板で入港作業をしていた隊員はその放送に一端作業を止め、通常の埠頭へ向かう僚艦を見送った。
『分かれッ！！』
「面舵８０度！！　転針！！」
「おもーかーじ、８０！！」
左へ転針した僚艦と別れ『大和』と『長門』は向かいの簡易埠頭へ向かった。史実では戦艦『ミズーリ』が保管されている場所である。

出港（後書き）

ご意見、ご感想お待ちしております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6201z/

パイレーツ・オブ・カリビアン　生命の泉〈自衛隊介入〉

2011年12月21日01時51分発行